

第 76 回日本癌学会学術総会にて婦人科疾患とホルモン動態に関する研究を発表しました (2017/9/28-30)

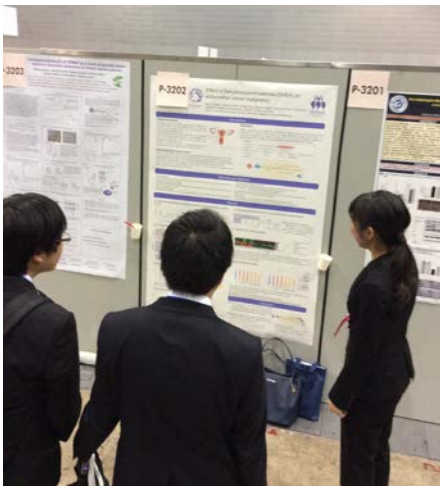
テーマ：災害医学研究教育、婦人科疾患とホルモン動態
場 所：パシフィコ横浜（横浜市）

当研究所 災害医学研究部門 災害産婦人科学分野の三木康宏 講師は、「婦人科疾患とホルモン動態」に関連して災害ストレスについての研究指導を行っています。その成果の一部を第 76 回日本癌学会学術総会で発表しました（下記）。癌学会には国外からも多くの研究者が参加し、癌に関する臨床研究や基礎研究について議論が行われ、国際交流の場ともなっています。今回のポスターセッションではフリーディスカッションが 90 分間で行われ、数多くの国内外の研究者と議論を交わすことができました。研究成果のみならず、当研究所で取り組んでいる「災害医学基礎研究」は未だ認知度が低い研究概念ですが、発表を通して多くの研究者に知ってもらえる良い機会となりました。

タイトル：The effect of dehydroepiandrosterone on the proliferation of endometrial cancer cells（子宮内膜癌におけるデヒドロエピアンドロステロン (DHEA) の作用)
演 者：吉田伶奈（医学系研究科修士課程 2 年）、三木康宏、笛 未崎、高木清司、鈴木貴、伊藤 潔（下線は災害産婦人科学分野所属）

内 容：DHEA は硫酸抱合された形 (DHEA-S) で血液中を循環しています。子宮内膜癌細胞はその DHEA-S を細胞内に取り込み、ステロイドサルファターゼという酵素で DHEA に変換します。癌細胞では DHEA は増殖の促進に係っていることを明らかにしました。

DHEA 分泌量は思春期から増加していきませんが、20 代でピークを迎えた後、急激に減少して 40 代ではピーク時の約半分となることが知られています。従って、若返りホルモンとして DHEA サプリメントが注目されています。その効果は未だ明確ではありませんが、ストレスによってその分泌量が影響を受けると考えられています。当分野では「災害」「ストレスホルモン」「女性生殖器疾患」をキーワードに研究を行っていますが、研究教育を通してさらに「災害医学基礎研究」の普及を目指したいと考えています



ポスター討論の様子

写真は医学部生、大学院修士学生とのディスカッションの様子で、その他、多くの大学の研究者と本研究について議論することができました。また、隣の 2 つの演題は、中国からの参加者で、さらに台湾からの参加者を含めて議論を行いました。

文責：三木康宏（災害医学研究部門）